



第21回 定期演奏会

1月22日(日)

1:30開演

主催：千葉県立千葉工業高等学校
吹奏楽部

後援：生徒会・吹奏楽部OB

21回目の定演を向えるに あたって

千葉県立千葉工業高等学校

吹奏楽部顧問 山本 義彦

本日はお寒い中を千葉工業高校吹奏楽部第21回定期演奏会のため
に、多数お越し下さいまして、誠に嬉しく、心からお礼申し上げます。
私たちの現在のバンドは環境、条件が必ずしも満たされているとは
思いませんが、この一年、「千葉工業のサウンドはどうあるべきか」
試行錯誤しながらも、ある方向に向かって再出発したところでありま
す。

今年度、新たに講師として中川氏を迎え、又各パートにおいては個
人レッスンを受け、アンサンブルから合奏まで練習を重ねて参りました。
本日ここにその成果を発表させていただきます。どうぞ最後まで
お聞き下さいまして、きたない御批判をいただき、今後ともご指導
を賜りますようお願い申し上げます。

❖ 千工吹メンバー ❖

Conductor	中川 自通	吹奏楽部 顧問	山本 義彦
	疋野 浩一 (3)		同 永峯 清秀
Band leader	高橋 誠 (3)		
[Piccol & Flute]	[Saxophone]	[Euphonium]	
	梶原 裕二 (1)	高橋 誠 (3)	成沢 竜治 (3)
益満 隆 (1)	岩井 泉 (2)	[Trombone]	
	天野 勝己 (1)	荒井 和雄 (2)	
[Oboe]	黒田 義宏 (1)	[Trumpet]	山口 章 (2)
[Clarinet]	桜井 努 (2)	橋本 峰雄 (1)	
	疋野 浩一 (3)	杉本 充男 (2)	[Tuba]
鈴木ひろ子 (3)	伊藤 孝一 (1)	仙北 敏昭 (2)	
平田 典之 (3)	[Horn]	[Percussion]	
山手 玲二 (2)	中島津木雄 (2)	鳥居 正博 (3)	
	林山 洋一 (1)	益満 猛 (3)	
	福恵 尚人 (1)	三瓶 政彦 (2)	



パーカッション 益満 猛

時にはシンバルを持ち、時にはバスドラムをたたき、時にはスネアドラムを、時にはティンパニーを打つ。それが私の仕事です。
新入部員にはチンドン屋のように思われ、真面目に練習すればうるさがられ、いつも部室でひっそりと生きぬいてきました。ご来場の皆さん、我がブラスバンドはまだ未熟ですが、音楽はどこにも負けないほど好きです。そのクラブの演奏を最後まで聞いてやって下さい。
特にパーカッションの演奏を……。



B^bクラリネット 疋野 浩一

ようこそ、前の5人に続いて、私(疋野)がごあいさついたします。
夜8時過ぎまで練習していた1週間前、その時長く感じた1日も、今日は短くなりそうです。思えば3年前、このクラブに入り、多くの先輩たちの指導を受けながら、叱られることばかりで、警められた事はただの1度もありませんでした。

そんな3年間で、我々は苦しみをこえた時の喜びを知って、この演奏会を迎えました。私はこの数々の人々との出会いを大切にしたいと思います。もし出会いが夢を造るなら、この演奏会が出会いの広場となることを願います。



B^bクラリネット 鈴木 ひろ子

皆さん、こんにちは。
さて、オープニングの「千工マーチ」をお聞き頂けたでしょうか。「千工マーチ」は我がクラブの定演の際、必ずオープニングに演奏される曲です。私の知らない歴代の先輩も、すぐ上の先輩も、そして今私たちも、その時代の「千工マーチ」を演奏してきたのです。音楽とは不思議なものです。1つの曲でもその時の聞く人、演奏する人の気持ちで、全く違う表現をする場合があるのですから……。

時々先輩たちだけで「千工マーチ」のアンサンブルが始まる時があります。きっとこのマーチは先輩たちの若き高校時代を思い出させるのかも知れませんね。私たちもこのマーチはずっと憶えていることでしょう。

これからの我が吹奏楽部は、素晴らしい後輩たちがきっと盛り立ててくれると思います。

皆さん応援して下さいネ!

曲 目

- 部 指揮 中 川 自 通
- 千工マーチ 荒 川 一 郎 作曲
 - ボルカ "狩り" ヨハン・シュトラウス 作曲
 - march "ウエリントン将軍" ... W.Zehle 作曲

- 部 指揮 疋 野 浩 一
- 夜 間 飛 行 Kermit Leslie
 - African Symphony V.Mccoy
 - フィーリング Morris Albert
 - My way P.Anka

- 部 指揮 中 川 自 通
- 序曲 "輕騎兵" F.Suppe
 - Festivo Vaclav Nelhybel
 - フィンランディア J.Sibellus

司会 黒 木 博 子

3 年 生 紹 介



テナーサクソフォン 高 橋 誠

月日がたつのは早いもので、私が千工吹という怪物にとらわれの身となって三年目。それも、今日の演奏会を最後として、暗れて自由の身に……。

初めて私とその怪物の城へつれて行かれ、そこでその怪物の子分で多くの大小の蓋がついている "Tenor Saxophone" というやつに見優られてきたが、今ではそいつは、親、兄弟また恋人 (本文初の嘘) よりも、私の心を最も良く理解してくれる (表現してくれる) 友人となりました。



B^b クラリネット 平 田 典 之
マネージャー

こんにちは、皆さん。ようこそ我が吹奏楽部の定期演奏会においで下さいました。しばらくの間、仲間たちの演奏を聞いてあげて下さい。お願いします。と一応マネージャーらしき事を書きましたが、実を言うと、僕は名だけのマネージャーなのです。しかし、彼らは違います。今日、この日のために、今このときのために、頑張ってきました。聞いて下さい。僕の愛した千工吹の演奏を……。



ユーフォニウム 成 沢 竜 治

我らの演奏を聞きに来て下さった皆さんに僕が最も愛した部室をご紹介します。

我が部室は秘密の森の近くで、微風に脅えながら、我々の吹く雑音を食べ、やっとの思いで、その生命を保っているのです。夏には無風状態と暑さのため、汗が滝のように流れ出し、冬にはすき間風がひどく凍え死にする部員が続出するとか……。

BUT、こんなボロ部屋でも、我らの思い出は決して消えませんが部室よ、永遠に不滅であれ!



パーカッション 鳥 居 正 博

僕は小学校、中学校の時は全く吹奏楽に縁のない平和な生活でした。そのころはロック (ELP, YES等) を好んでおり、ドラムを愛していました。そして今は千工吹に籍を入れています。なぜこんなことになったのかは、誰もわからない。今でもロック、ジャズを愛しているため、ものたりないこともあるが、部に入っている以上仕方なく、パーカッションで我慢して、満足しています。とにかく3年間頑張ったと思います。